

東京家政学院短大 今井弥生 ○文化女大 盛田真千子 共立女短大藤田信子 文化女大
飯塚弘子 青葉学園短大 芦澤昌子 聖徳学園女短大 道家とき 共立女大 武井幸子

目的：人口構成における高齢者の割合が増え、高齢化社会になった今日、老年期の生活を豊かにするために、高年者の美的感情の実態を色彩感情の側面より分析しようとするもので、当学会、色彩・意匠部会では全国的に実態調査を行ってきた。本報は去年の続報であるが、性別による色彩嗜好の特性を慣用色名と系統色名から分析し報告する。

方法：対象・調査方法などは前報と同様である。本報では JIS 色票 80 色の各色につき、性別に、嗜好色・嫌悪色の割合を求め、さらに、80 色を JIS Z 8102 により慣用色名と系統色名を JIS 値をもとに探った。系統色名は無彩色と有彩色に大別し有彩色は 10 色相の系統色名に対応させ、各色相から男女の色彩反応の差異から特性を分析した。

7-1 7-1	調査 性別		老年前期	老年後期	地域				職業		未婚	既婚	所帯		住居形態		
	93年	男 女	65-74 歳	75歳	東北以北	関東	東京	関西以西	有	無	未婚	既婚	単身	夫婦	同居	一戸建	集合
N2100	9月	574 1526	1333	767	300	527	473	800	378	1722	1011	999	379	699	1022	1628	472

結果：嗜好色は男性があざやかな青（緑色）、暗い青（紺）、あかるい青緑（あざ色）など、女性は明るい青紫（藤色）、あざやかな紫（あめ）に高く反応を示したが、男女共に青色相が好まれ、女性は紫の色相にやや高い反応を示すが色相による好みの傾向には顕著な差がなかった。嫌悪色は男性があざやかな赤（カーマイン）、黒（墨）、暗い黄赤（チョコレート色）などに高く、女性は暗い灰（スレートグレイ）、黒、暗い黄赤などに高い傾向があった。嫌悪色は赤、黄赤、黄の色相が嫌われた。男女共に無彩色の低明度が嫌われた。嗜好色における性別の差より、嫌悪色にその傾向が顕著にあらわれ、性別特性をみることができた。